

日本原子力学会秋の大会 第 45 回炉物理部会全体会議議事録

日時：平成 28 年 9 月 8 日(木)12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2016 秋の大会 H 会場（久留米シティプラザ スタジオ 3）

1. 平成 28 年度予算実績報告（資料 45-1）

財務小委員会担当幹事より配布資料 45-1 に基づき、平成 28 年度の予算及び前期の実績について報告がなされた。

2. 第 48 回炉物理夏期セミナー、若手研究会報告（資料 45-2）

セミナー小委員会担当幹事より、配布資料 45-1 に基づき本年度の夏期セミナーの報告が行われた。収支については、最終的に黒字となった。また学生・若手小委員会担当幹事から若手発表会について、一部英語での発表が行われ活発な質疑応答が行われたことが報告された。

3. 平成 29 年度予算案について（資料 45-3）

財務小委員会担当幹事より、配布資料 45-3 の平成 29 年度予算案について説明がなされた。平成 29 年度は、4 部会合同日韓サマースクールが韓国で開催、RPHA2017 が 9 月中国開催など、イベントが複数あり、それに関連して学生・講師に対する旅費支援を一人当たり 8 万円を上限として 6 名分を計上した予算となっている。予算案の承認に関して、小原部会長より、規約上全体会議における承認が必要である旨が説明された。部会長、運営小委員会の機動性を上げることを目的として、全体会議で予算案の概要について承認をもらい、予算が必要な場合は、予算外申請として学会に申請することに関して、部会長及び運営小委員会に一任する旨の提案がなされ、予算案および予算外申請の運営小委員会への一任が承認された。

4. 平成 29 年春の年会での企画セッションについて（資料 45-4）

学術交流小委員会担当幹事より次回の春の年会での企画セッションについて、事前にメールにてセッション案を募集したが意見がなかったため、以前の募集案をベースにした「ベンチマークの現状と課題」が提案された。深堀核データ部会長から前日の核データ部会全体会議において共催を望むことが了承されていることが紹介され、本件について炉物理、核データ部会共催の企画セッションの形で進めることになった。セッションタイトルについては、核データ部会と調整することとした。

5. 炉物理部会賞表彰細則の改正について（資料 45-5）

小原部会長より部会表彰細則の改正について報告がなされ、文面の確認が行われた。

貢献賞を追加し、これまでの部会賞は奨励賞として名前を変える内容となっている。前回全体会議において規約改正内容について再度説明が行われた。規約は全体会議で承認後、部会等運営委員会、理事会への報告という手続きとなっている。また以前は内規としていたものを細則と名前を変え、細則に関しては運営小委員会で決定後、全体会議で報告することとなっている。

6. 炉物理部会賞公募機会の延長について（資料 45-6）

小原部会長より炉物理部会賞について、応募期間中に応募がなかったことから、期間を延長する旨が報告された。奨励賞は年 3 名までであり、過去に選に漏れた方もぜひもう一度応募してほしいこと、また炉物理分野では論文が出にくいことを考慮し、若手をプロモーションすることや、論文に出ていないことに対しても炉物理におけるその貢献を表彰したいことが説明された。

7. 炉物理部会規約の改正について（資料 45-7）

小原部会長から活発な部会活動のために部会長、副部会長の任期を 2 年とする部会規約の改正について提案がなされた。現状の規約では任期を別に定めるとしているが、任期を定める細則などの規定がなく、部会長、副部会長を 1 年、他の運営委員 2 年で運用されている。これを 2 年とし、改正案を平成 29 年 3 月の部会全体会議で承認し平成 29 年 4 月より新体制とすることが説明された。炉物理部会からの代議員を部会長が兼ねている点が指摘されたが、ちょうど平成 29 年度が交代であることが確認された。このほか、予算の柔軟性に関する規約改定についても改正案を運営小委員会でとりまとめ、次回春の年会における全体会議で承認手続きを行うことが了承された。

8. 炉物理ロードマップのローリングについて（資料 45-8）

名大山本先生から、2012 年 3 月に作成した炉物理部会の「原子炉物理分野の研究・開発ロードマップ」のローリング（更新）について提案がなされ、概要及び予算について説明が行われた。委員会の設置、委員長（山本先生）、委員の選出方法（前回と同様に研究機関、民間、大学の中から代表的な方から 17, 18 名前後）について了承された。研究炉の寿命から考えると時間が残されていないことから研究炉に対して部会としてどう考えるか、大学研究炉や JRR3 と共同で行ってほしい。2012 年のロードマップがどのように使われたかなど出口戦略を含め、定期的なレビューを含めた仕組みについても議論の対象にしてほしいなどコメント・要望があった。

9. 群定数 ISO 規格化対応検討 WG 計画について（資料なし）

JAEA 須山氏から放射線防護につかう群定数の ISO 規格化対応検討 WG について説明が行われた。現在 ANSI の規格を ISO の標準にしたいという動きがあり、国内 JIS 規

格には該当規格がないため、ISO 規格が定まるとそれが基準となる。もし ENDEFNJOY の固有名詞が入った場合、FRENDY、JENDL が使えなくなる可能性がある。放射線工学部会の下に対策チームができる予定であり、核データ、炉物理も協力し、ワーキンググループができたときに参加し、必要な意見を言うこととなった。その際、代表を部会長指名で送ること、具体的な人選は須山氏に一任することが了承された。

10. その他

編集小委員会担当幹事より、「炉物理の研究」第 69 号の発行状況について、特集の原稿 1 件が上がっていないため発行が遅れたことと、近々発行予定と報告がなされた。

配布資料

- 資料 45-1 平成 28 年度炉物理部会収支報告
- 資料 45-2 第 48 回炉物理夏期セミナー報告
- 資料 45-3 平成 29 年度炉物理部会予算案
- 資料 45-4 平成 29 年春の年会での企画セッションについて
- 資料 45-5 炉物理部会賞表彰細則の改正について
- 資料 45-6 炉物理部会賞公募機会の延長について
- 資料 45-7 炉物理部会規約の改正について
- 資料 45-8 炉物理ロードマップのローリングについて

以上